

みなしご通信

5月

北海道芦別TNR 新たな準備も

2013年8月に芦別市野花南町の多頭現場の子たちの不妊・去勢手術をしました。これには《続き》があつて、芦別多頭の手術の後、私はいつものように《調子に乗って》『母猫と子猫は広島に全員連れて帰るよ』※栃木拠点は封鎖中と声高に言い20〜30匹の母子猫たちをみなしごバスに乗せました。そこで終わっていたら北海道と私のご縁はなかったと思うのですが初・北海道の活動の成功に気をよくしたのか調子コキの私は《さらに調子に乗って》民生委員さんに『もし爺さん（独居の飼い主）が長期入院するとかで猫たちのお世話ができない状況になったら、これもなにかの縁じゃしここの子たちは全員私が連れて帰るん

で私の携帯に電話してください！』なうんて大風呂敷を広げてしまいました。

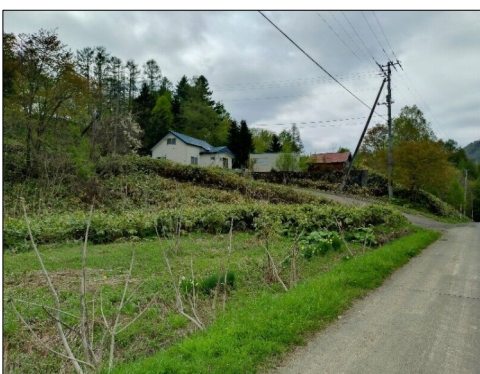
ほんの挨拶程度の軽い気持ちで発言したのですが、爺さんたつた2ヶ月後に倒れて：そんなに早く倒れるかな？民生委員さんも電話口で困った様子でしたが一番困つたのは誰でもない私です。『要らんことを言うた』※余計な発言をした：と反省しましたが約束は約束！迎えに行くしかなかるう！だけど芦別の子たちをどこに入れるか、それが大きな問題。当時は福島での活動が終了したために栃木拠点は封鎖していたし、広島本部は広島市のセンターに収容された殺処分対象猫全頭の引き出しを始めており2号館の建設を猛ダッシュでやっていたとき。そこへ

芦別の子たちをつてわけにもいかず、ここはいつちよ封鎖中の栃木拠点を再開するしかやりようがない！

福島活動のときのボランティアさんの中から協力者を募りました。神奈川・東京・埼玉・茨城と栃木県南から協力者が集まり日曜から土曜まで連日の人材確保ができた！ヨシ！道は開いた！『芦別の子を連れて帰るぞ』封鎖していた栃木拠点を突貫改修して芦別の子たちの生活の場《芦別エリア》を作つて意気揚々と再び北海道に行きました。

そしたらまたまた問題勃発！山に入つたまま帰つて来ない子が2匹。住む人間がいらない電気もないような家でたつた2匹だけで冬を越すのは厳しいと判断し、あえて10匹残すことに。翌春その10匹をお迎えに行き、結局1年以内に私は3回も北海道へ渡つたのです。最終的に芦別からは乳飲み子から成猫まで70匹あまりを引き取り、元気で手がかりにくい50匹ぐ

が栃木拠点の《芦別エリア》で暮らすことになりました。《懐かしい！》右の写真は芦別の子たちを連れて帰つて4年後2018年ごろの犬猫みなしご救援隊栃木拠点・芦別エリア。部屋から外に出ると草が生えていて緑な感じ。北海道の大自然に近い環境を私なりに考えて作りしました。芦別の子たち



ちはポツンと一軒家で意地悪な近隣住民に邪魔されることなく天真爛漫に育っていたから素直で《かわいい》を通り越したかわいさのある子たちでした。一匹、また一匹と亡くなり、一桁台になつてから大型猫舎に移動させ《芦別エリア》は《たぬきエリア》となり寂しいことに当時の成猫は残り1匹になりました。

《芦別市の家》昨日5月10日の朝、芦別の子たちが暮らしていた家を1年ぶりに見に行きました。誰も住まなくなつて放置されて11年。一瞬ほんの一瞬私にも田原くんにも《同時に》改修工事をした？と錯覚す

るほどキレイに見えました。もしかしたら栃木拠点で亡くなった芦別の子たちがこぞってここに帰るとるんかも…と私は思いました。芦別のこの子たちが居なかったら私はここまで北海道にこだわらなかつたと思います。栃木拠点で暮らしているあまりにもかわいいう芦別の子たちを見ながら、こんな囲いの中ではなく広い野山を自由に飛び回ってもらいたい、北海道に帰してあげたい！と何度も思いどうすることもできず結局栃木拠点で看取っていき私の中にジクジたる思いがあるのは事実です。



ろやってジワジワと活動が広がって近隣の市町からも猫がTNRに集まるようになりしました。私は北海道の猫たちが北海道で安心して暮らせるよう地域猫活動やTNR活動が広まることを願っています。47都道府県で唯一いまだに地域猫活動の推奨すらない北海道庁の石頭ぶりもどろなん？と思うので私は北海道民でもなんでもないのでありますがいかにも変えていけたらなと思っています。芦別拠点の近所の桜はまだまだ見事でしたよん♪

小さな民家が芦別拠点。ここには普段は誰も居ません。TNR一斉をするためだけの建物です。TNRは屋根と壁と電気と水道があればできます。知恵と経験と腕とセンスがあればなんの設備も要りません。

北海道でも新たな活動を始めるために5月10日、山を見に行きました。私がやりたい活動は800坪ぐらいあればできるのですが構図を見たら驚きの広さで実際に行って見るとさらに驚きの広さでした。こんな広い田んぼと山を持つてて人が私の活動に協力してくださるなんて夢のまた夢♪すべては芦別野花南の子たちからつながった縁です。どこから手をつけようか：贅沢な悩みじゃね！

田んぼと山の間には大きなため池がありなんて素晴らしい！私がここに住みたいぐらいじゃ！湧き水もチョロチョロええねえ大自然！ため池のほとりにはすみれが自生。ええじゃん！。鹿の糞は十分な大きさです。この辺りはまだ食べ物があるのでしよう！鹿の足跡や鹿の抜け毛も落ちていました。

た。白っぽいキツネは私たちの存在に気づいて動きを止め息をひそめています。広島本部付近にも栃木拠点付近にもキツネはいますが慎重に行動する生き物だからその姿をみることはあんまりありません。昼間から普通にキツネが見れるのは北海道だけなんです。

北海道にはキツネや鹿や熊だけでなくたくさん野生動物が暮らしています。野生動物が現れただけで撃ち殺すなんて「野蛮なこと」は近代人間がすることではありません！野生動物たちが生まれた地で無事に生活ができうまく人間と共生していくことを考え実行することこそが近代人間の役目です。私はそのために《山の整備》は必須だと思えます。荒れ果てた山を《活きた山に戻す》この壮大な任務は多種多様な野生動物を保護育成している私の宿命だと思っています。ヨシ！

NPO法人（特定非営利活動法人）
犬猫みなしご救援隊
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL：082-812-3745 FAX：082-815-2711

みなしご通信のバックナンバーは、公式ページに掲載しております。「みなしご通信」で検索してみてください。

YAHOO! JAPAN ネット募金

 **つながる募金**

▲ネットやスマホで当団体に募金できます

本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。